

幼小接続部会

部会長：附属幼稚園 田村郁
部会員：附属幼稚園 佐々木麻美・灰谷知子
附属小学校 小沼律子・宮川紗織・山賀愛・和氣拓巳

2025 年度活動報告：

今年度も幼稚園、小学校の教員で子どもたちの姿について語り合いを重ねてきた。その際に教師が子どもをどのように捉えるか、具体的な関わり方や教師のまなざしなどを観点にすることで、校種による違いや重なる点が見え、互いに学びを深めることができた。

<幼稚園>

1 小学校の「みがく」の時間を参観して

小学校1・2年生の「みがく」の時間の参観では、子どもたちがそれぞれ自分のやりたいことを見つけ、実現するために、必要なものを学校や家庭でどうしたら手に入れられるか考えて進め、友達の意見や教師の問いかけをきっかけに、活動を変化させたりしている様子を知ることができた。参観後の部会では、どのように子どもたちが自分のやりたいことを見つけてきたのか、きっかけやその後の変遷を伺い、幼稚園での主体的に遊ぶ経験が元になり、さらに自分たちでできることを広げていることがわかった。また、教師がどこまで手助けするかなどの関わり方の難しさや迷いについて議論になり、子どもが中心になる学びについて一緒に考えていくことができた。

2 幼稚園参観後の振り返りを通して

小学校教員との振り返りのなかで、保育における時間や空間のゆとりが話題に挙がった。小学校はハプニングが起これないように、事前に様々な対策をしている一方で、幼稚園は安全面は考慮しつつ、ハプニングが起こったときに子どもの思いをどのように汲み取り、関わるかを大事にしている。小学校教員の気づきを通して、子どもを中心にした時間や環境の設定が保育において重要であると改めて考えることができた。

3 記録の仕方について共有

子どもたちの記録をどうやってとっているかが話題に挙がったことをきっかけに、幼稚園が継続している記録「対話型マップ記録」について共有した。また、小学校の記録も共有し、教師が撮影した写真をもとに、子ども達が掲示をつくり、貼り出すことで、それを見た子どもの興味が広がるきっかけになっていることを知り、多様な記録の仕方があることを学んだ。

4 交流について

この部会のつながりから、幼小が隣接する広場を活用して、小学生が作った紙芝居や劇などを見せてもらい交流する機会を得た。小学生が声をかけてくれたことをきっかけに、園児は準備をしているところから読み聞かせまで興味深く見て、楽しんでいった。園児にとっても小学生の暮らしを感じる機会になったと思う。教員同士だけでなく子ども同士の交流を含めたこれからの連携について考えていくきっかけになった。

来年度は、互いの参観の機会を増やし、実際の子どもの姿の語り合いを重ねていくことで、幼小連携について考えていきたい。

〈小学校〉

小学校の活動とつながった点について示す。

1 材料庫について

小学校では「えらぶ」や「みがく」「休み時間」の時間のように、自分たちが活動を選択して行う時間がある。いつでも材料を選び、自分たちのやりたいことを実現できる環境にしたいと思っているが、保管は思いの外大変である。幼稚園の教材室を参考にさせていただいた。

- ・箱や牛乳パック、ラップやトイレットペーパー芯など保護者から集める
- ・どんなものをつくりたいか大人に相談し、一緒に探しに行く
- ・教材室は全学年が使うため、担当の教員を中心に整理をしている

小学校でも各家庭から集めたり、子どもたちが使いやすいように小さめに切ったりして使いたいときに使える状態にしたい。

2 記録について

幼稚園で対話型マップに関する研究を聴いた。子どもたちの声を記録したいと思っても活動場所が広がっていたり、教員同士で共有する時間が少なかったりして記録については悩む。園舎園庭に活動を書き込んでいる記録用紙は見やすく子どもの様子が想像できた。小学校では1年間通して教員が撮影した写真を子どもたちが時期や内容を合わせて壁紙に貼り、その時の自分の気持ちなどをペンで書き込んだ。記録方法についての議論は考えていく上で参考になった。

3 交流について

小学生が作った紙芝居や絵本などを読む活動で交流した。

幼稚園での活動を参観や対話を重ねることで、これまでの履歴や大事にしていることが分かり、小学校での活動につなげていきたい。